

特集

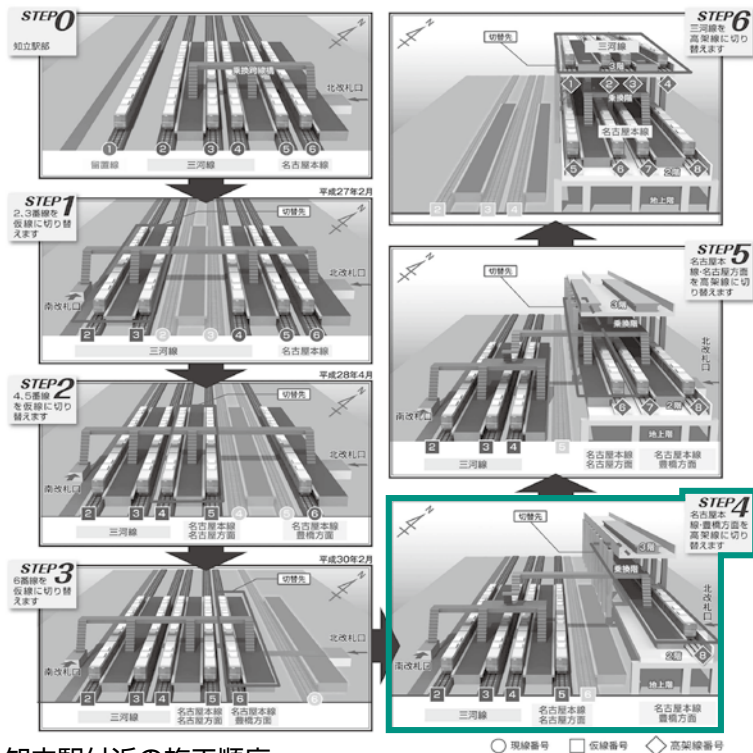
令和5年3月21日(火・祝)の始発列車から、名古屋本線(豊橋方面行き)が仮線から高架線に切り替わっています。



高架の効果

知立駅付近連続立体交差事業は、鉄道による踏切渋滞や地域の分断を解消し、都市交通の円滑化及び周辺市街地の生活環境や都市機能の向上を図るため、知立駅(知立市)を中心とした名鉄名古屋本線及び三河線の鉄道施設約4.3km(名古屋本線約1.6km、三河線豊田方面約1.2km、三河線碧南方面約1.5km)を高架化するもので、愛知県が事業主体となって施行しています。総事業費約792億円(うち市負担額125億円)で、令和10年度に事業完了予定です。

このうち、名古屋本線の豊橋方面行きを、この度以下のとおり仮線から高架線へ切り替えました。これにより、豊橋方面行きの列車による踏切の遮断がなくなります。



知立駅付近の施工順序

知立駅の高架化は、駅周辺の既成市街地において限られたスペースの中で駅舎を三段階に分けて施工するため、事業の完了まで段階的な線路の切り替えが必要であり、図のような施工順序を進めています。さらに、土地区画整理事業や街路整備事業、市街地再開発事業と一体となって市街地整備を行うことにより魅力あるまちづくりを実現します。

今回の事業完了部分

平面図

